

くにびき通信

2023年 11・12月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

はじめに

過日11月の収穫祭では、多くの方々に足を運んでいただき、ありがとうございました。子どもたちは今まで積み重ねた体験発表をやり切り、皆さんに自分たちの成長を見ていただけたことで、大きな達成感を感じることができました。収穫祭が終わった直後の子どもたちが、充実感溢れる表情をしていたことが、私はとても印象的でした。

収穫祭後は一気に肩の荷が下りたようで、自由時間には外で遊んだり、太鼓の自主練習に励んだり、囲炉裏の火で暖まりながら談笑する時間が増えました。たまにはこうしてゆったりした時間が流れるのも悪くないなあと思いつつ、ただ、今後は神楽の練習が始まったり、来年度の進路について頭を悩ませたりと、修園を意識した時期に入っていきます。今までの自分自身を振り返り、3学期をどのように過ごすのか、来年度継続するのか、地元に戻るのか、自分でしっかりと考え、冬休みには親子で話し合い、納得のいく進路を歩んで欲しいと思います。

今年も残り1ヶ月を切りました。これからまだまだ寒くなり、そのうち雪も積もり始めることでしょう。3学期はあっという間に過ぎてしまいます。これからも一つひとつの活動を丁寧に取り組み、三瓶の冬を楽しみたいと思います。

主任指導員 稲井祐介



今回の活動カレンダー



日にち	活動内容
10月28日(土) 晴れ	トライ塾
	酪農体験1日目
10月29日(日) 雨	酪農体験2日目
11月3日(金・祝) 晴れ	収穫祭準備
	2学期誕生日会
11月4日(土) 曇り・雨	畑活動・収穫祭準備
11月5日(日) 晴れ	ピラ配り・山口祭り

日にち	活動内容
11月13日(月・振) 雪	収穫祭準備
11月18日(土) 雪	収穫祭1日目
11月19日(日) 晴れ	収穫祭2日目
11月23日(木・祝) 晴れ	祖式町文化祭
12月2日(土) 曇り	原木切り出し
12月3日(日) 曇り	山留米配り

トライ塾 10/28 (土)



数字や物体の仕組みを利用した、ちょっと頭を使う活動「何でもトライ塾in三瓶」。「まるでエスパーのように答えが読める不思議な問題式」「畳んだり伸ばしたり出来る箱づくり」「紙の多面体カレンダーづくり」など、大きく3つのブースに分かれ、地域の子ども達も一緒に参加しました。トライ塾が終わった某日、帰園したとある学園生が何やら折り紙をおりおり…。見ると、トライ塾で教えてもらった折箱を作っていました。講師の方も喜ぶぞ〜◎

酪農体験 10/28 (土)、10/29(日)



28日午後から29日夜にかけて、「酪農家さんの仕事の1日」をたっぷり体感しました。中でも「角切り」作業は重労働。角切りは主に、角の大きさで牛同士の強弱関係が決まるのを避けるために行いますが、牛にとって強烈な痛みを伴う作業のため、牛は暴れ鳴き叫びます。作業を迅速かつ的確に終わらせることが牛にとって一番ですので、学園生たちも暴れる牛を抑えたり、時には牛の叫び声に耳を塞ぎながら、大変な作業をたくましくやり切りました。

2学期 誕生日会 11/3(金・祝)



今回誕生日の学園生は5名、指導員は1名！小学生2名は1学期生まれ、中学生5名は2学期生まれと綺麗に分かれています。

調理班4名が手がけた今回のメニューコンセプトは「洋食」。オープン使用のレシピが多く、オープンを開ける度に「うわあ！できてる！」と感動の声が上がっていたのが印象的でした。「私キッシュ好きだから作ってみたい！」と、それぞれの学園生が「作ってみたいもの」をのびのび作っていたのが良かったなあと感じました。

一方、出し物班3名が企画したのは、入浴前の「しっぽ鬼」と夕食時の「箱の中身あてゲーム」。しっぽ鬼は運動でお腹を空かせるという策士な目的もあったそう。メインの夕食時間はピザ、バタービール、パイなど、思い思いにつくった料理を美味しくいただきました。

箱の中身あてゲームは大盛り上がりでした！箱の中に400mlサイズの液状のりが入っていた時は、大変驚きました…。

畑活動

11/4(土)



年内最後となる畑活動はさつまいも掘り。今までのじゃがいも掘りで培ってきた掘り出しの技術フルに使い、可能な限り鍬で傷付けないようにさつまいもを掘りました。モグラ除けの風車を設置してからは、初秋の頃よりもモグラの山は見かけなくなり、その甲斐あってたくさんさつまいもを収穫できました！

採れたさつまいもは干し芋などに加工しました。個人畑でも育てていた学園生は、「家族にも見てもらいたいな〜」と、家族分としてとっておいたようです。出来た干し芋は学園生が自分で干し網から取り出し、囲炉裏で炙って食べています。囲炉裏のある生活を満喫していますね。センター活動としての畑作業は終わりましたが、個人でもう少し野菜を育てたいという学園生は、寒さにも負けない小松菜やパセリといった野菜を植えて、畑活動の余韻を味わっています。

ビラ配り

11/5(日)



あと2週間で収穫祭。日頃お世話になっている地域の方に来ていただけるよう、大人と学園生でタッグを組み、北三瓶のあらゆる地区へ収穫祭のチラシを届けに行きました。「是非来て下さいね。お待ちしております！」と伝えに行ったはずが、あれ？何だかたくさんお土産を貰って…。北三瓶の皆さん、暖かいお心遣いを本当にありがとうございました。地区を巡る中で様々な発見もありました。「1人暮らしの方、結構おられるんだなあ」「こんな遠い山の中にお家があるなんて！」と、交通の不便さなど、学校でも習う中山間地の現状と仮題を自分達の足で気付きを得ていたようでした。

山口祭り

11/5(日)



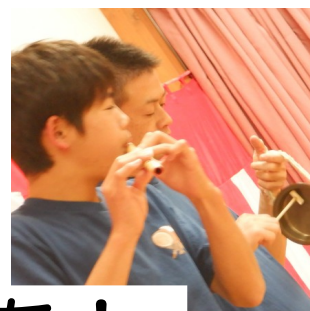
山車を担ぎ、山口町中心部を練り歩くのは4年ぶりとなった山口祭り。祭事に相応しい晴天に恵まれたこの日、学園生は旗を持って山車係の人々についていく役割を担わせていただきました。秋風を受けて翻る色とりどりの旗がとっても綺麗。普段センターと一緒に過ごしている稲井指導員も、この日は袴を身にまとい笛役として祭りを賑わせ、学園生も普段とは違う指導員の振舞いに興味津々でした。どうやったらあんな風に長時間安定した音色を出せるんだろう…？太鼓クラブでも笛を扱いますのでそんな視点でも気になっていたのかもしれない。

収穫祭

11/18 (土)、11/19(日)

1日目は、学園生たちが関心を持ったことに取り組んだ「個人体験」の成果発表、センターでの生活模様を表現した「生活劇」などを披露しました。

2日目は、学園生の保護者さん中心に模擬店、バザー、ビンゴ大会などを開催。地域の皆さんや学園の卒園生も集い、賑やかな2日間になりました！



ご来場ありがとうございました！



Q. 学園生の皆は、今年の収穫祭を終えてどうでしたか？

模擬店飲食スペースで初対面の人と話した時に、「俺、地元に行った時と比べて人と話せるようになったな」と感じました。

劇中、舞台裏で皆で騒ぎながら次の準備をした時に、「1学期は皆とこんなに仲良くなるなんて思わなかったな」と思いました。

個人体験の発表直前は緊張していたけれど、始まってからはあつという間で、うまく発表出来て良かったと感じました。

咲兄の髪が長くなっていてびっくりしました。

太鼓演奏で私も精一杯やったはずなのに、OBOGの皆さんの演奏が凄くて、OBOGの凄さに驚きました。

収穫祭が終わり、「もうこのメンバーでの生活も残り僅かなんだな」と感じ、しみりした気持ちになりました。

OBOGや地元生との太鼓演奏はいつも以上に迫力が増して、演奏してとても楽しかったです。



🍁がんばったね！おつかれさま！🍁

祖式町文化祭 11/23(木・祝)



市内祖式町にて行われた文化祭。気持ちのいい青空の下で太鼓演奏をさせていただきました！祖式町は9年前まで在籍していたセンター長の出身地で、そこからのご縁で来ていただいています。太鼓演奏は開会してすぐのプログラムだったので、皆のエネルギッシュな太鼓の音色で、一気に文化祭の賑わいが高まりました。

出番が終わった後は皆お待ちかね、射的屋、焼き鳥、わたあめなどの模擬店巡り。時には祖式町の小さな子ども達がやってきて、一緒にボトルフリップで遊びだす場面も。ちびっこ達を引き付ける力が、皆にはあるのかもしれないね！帰りの車内では皆爆睡でした… z z z



原木切り出し 12/2(土)

12月最初の活動は「原木切り出し」。普段使っている囲炉裏の炭をつくるために、センター近くの山から約10本の木を切り出しました。今年も2名の伐倒講師さんをお招きし、学園生は2グループに分かれてそれぞれ講師の方についていき、安全な切り方などのご指導をいただきました。

学園生はノコギリでの切り出しに挑戦。木が倒れる方向を木の伸び方から予測し、切り込みを入れて切り倒します。誤った力の入れ方をしても木は全く切れないので、正しい力の入れ方を学びました。玉切りした原木を運ぶ作業は力も体力も要りますが、「まだいける！もっと木を乗せてください！」と、両腕いっぱい原木を抱えて持っていく学園生もいました。また冬の山々は、キャンプをした時とはまた違った表情を見せていました。その変化に気付き、「見て！この葉っぱ色んな色に染まって虹色みたい！」と、四季の移ろいを楽しむ学園生の姿がとても印象的でした。



山留米配り

12/3(土)

山村留学センターの稲作で収穫したお米は、センターの名前にちなんで「三瓶こだ米」と呼んでいます。主に収穫祭ではお会いできなかった、日々のセンター活動でお世話になった方へ、このお米をお届けに行きました。今年の4月から今までの活動の中には、東は朝山町、西は温泉津町と、思えば遠い地域の方にもお世話になっていました。センターの活動は、そんな幅広い活動を教えてくださる地域の方は勿論の事、日頃学園生たちを見守ってくださる北三瓶の皆さんがいてこそ成り立っています。気持ちばかりの量ですが、子ども達が手がけたもので御礼を伝えることが出来ました。



西村崇司のつぶやき

＼紙がなくなる日が来るかも／

個人的にはトイレトペーパーは紙でなくては困ります。

タイトルの「紙」は正確には「紙媒体」のこと。新聞、雑誌、仕事上の書類や手帳などを指します。わたしは中学生の頃から、あることがきっかけで週刊誌とテレビ情報誌を各1冊定期購読してきました。ずいぶんお金を使いましたが過去形です。というのも、購読していたテレビ情報誌は昨年2022年3月末に、週刊誌は今年5月末に休刊されたからです。休刊の数か月前に「〇〇月末をもちまして休刊します。読者の皆さまにおいて は……」との事前告知がされた時点で、「実質もう廃刊だ」と感じました。まちの本屋さんがなくなってきて久しいですがそれ以来のショック事。本屋さんがなくなったのはインターネットで一定額以上買えば家に居ながらにして送料ゼロで手に入るようになったことが大きな理由でしょう。それでも、まだ本や雑誌の需要はあったと思っていましたがどうやらそうではないようです。今回、定期購読していた週刊誌の休刊にいたる背景の記事を読むとわかっていなかったことがたくさん出てきました。

この週刊誌は1922（大正11）年創刊で売上部数の最高値は1958（昭和33）年の150万部強、経済が豊かになった世相を反映し当時の一般家庭では娯楽のひとつとして買ひましょ、病院や会社なども待合室に置ましょという風潮があったようです。新聞は昨日の最新の情報を得るために読む、週刊誌や月刊誌は空いている時間（すき間）にパラパラめくって目にとまった記事を読むといった読み方でしょうか。時代はくんだり、すき間を埋める娯楽が多様化することにもなって、すでに1990年代後半（平成ひと桁）頃には販売部数が最盛期の半分程度に落ち込む雑誌も出てきて、くだんの週刊誌は最終版は4万5千部だったとのこと。割り算すると $45,000 \div 1,500,000 = 0.03$ 、つまり97%減ったことになり唖然としました。その原因のひとつが2000年代後半（平成中旬頃）のスマートフォン台頭があったようです。ポケットサイズの機器で無料でWebニュースを見ることができるようになると、たしかに最新の情報（動画までも）がタダでいつでも見られるのですから「黒船襲来」レベルの変革がおきていたんでしょう。それでも紙媒体は残って欲しいと切に願います。読むだけならまだしも紙に鉛筆やボールペンで書くという行為と表裏一体だからと思うからです。紙がなくなれば筆もなくなってくるのでしょうか。

「くにびき通信」2023年11,12月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL:0854-86-0700 FAX:0854-86-0701 Email:o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市山村留学センター
公式ホームページ



くにびき通信
カラー版